

施策評価シート(令和3年度)

(基本施策の大綱) 3. 交通拠点性を生かした都市活力の向上

(基本施策) (5)広域的な交通拠点性の強化

(評価担当者)

政策部長 笠井 武洋

■基本施策が目指す姿

市内外の人が、高速交通ネットワークを活用し、広域的な交流・連携を行っています。

■関連する分野別計画

■成果指標

	単位	現状値		実績値					目標値	
				H29	H30	R1	R2	R3		
1	リニア中央新幹線亀山駅整備 基金残高	億円	15.5090	H27	16.5106	17.0175	17.5212	18.0232	18.5364	20
2										
3										
4										
5										

■市民アンケート調査

項目		現状値 [H27]	1次 [H30]	2次 [R2]	市民アンケートの考察
1	高速道路網が整備されている	重要度 1.05	1.07	1.05	高速道路網の整備に対する市民の満足度が向上している。これは、前回(平成30年度)の市民アンケート調査後、新名神高速道路の県内区間全線開通(平成31年3月)や、亀山西JCTの名古屋・伊勢ランプウェイが完成(令和元年12月)したことで、東名阪自動車道とのダブルネットワーク化や慢性化していた渋滞緩和が図れたことなど、高速道路網の強化が図れたことによるものと考えられる。
	満足度	0.63	0.63	0.75	
2		重要度			
	満足度				
3		重要度			
	満足度				
4		重要度			
	満足度				
5		重要度			
	満足度				

■総合評価

総合判定	左記の総合判定とした理由
B まずまず進んだ	リニア中央新幹線市内停車駅の誘致の推進については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、一部活動を縮小せざるを得なかったものもあったが、県や県期成同盟会等との連携をはじめ、リニア亀山市民会議の活動支援による早期全線開業と市内停車駅誘致の推進、県内唯一のリニア県内駅位置候補市として県期成同盟会へ駅候補地案の提案を図ったほか、リニア亀山駅整備基金の残高が積立目標額の9割を超え、計画的に市内停車駅誘致後の周辺整備に向けた財源確保も図れた。一方、広域道路網の強化については、関係市町等が連携した建設期成同盟会により要望活動を行ってきた地域高規格道路「鈴鹿亀山道路」が、県により事業化されることとなった。これらを踏まえ、総合判定をBとした。
反省点・課題	
リニア中央新幹線の県内駅候補地案を県期成同盟会に提案するなど、リニア誘致が新たな局面を迎える中で、コロナ禍の影響により、計画していたリニア亀山市民会議主催のシンポジウムが開催できなかったことなど、リニア亀山市民会議の会員はもとより、広く市民に対する情報提供や機運醸成につながる取り組みが十分に実施できなかった。一方、広域道路網の強化については、国道1号関バイパスの早期実現を図るため、関係市町等と連携を図り、継続的な要望活動を展開していく必要がある。	

今後の展開方針

県期成同盟会におけるリニア県内駅候補地の決議等を踏まえた上で、先行開業区間の建設動向を注視し、事業主体による名古屋・大阪間における環境影響評価の実施時期(概略駅位置の公表)を見据えながら、県並びに県期成同盟会等との連携を一層強めるとともに、積極的な駅誘致活動の展開や「リニア駅を生かしたまちづくりの可能性調査」の取りまとめを実施していく。また、新たな局面に入ったリニア誘致を好機と捉え、新型コロナウイルス感染症の感染動向等も見ながら、リニア亀山市民会議を通じた市民の機運醸成を図るための取り組みの展開と、その裾野を広げるための会員拡大を図っていく。一方、広域道路網の強化については、名阪亀山関工業団地の隣接地への大規模商業施設の立地に伴う交通影響も含め、国道1号関バイパスの早期事業化について、建設促進期成同盟会を通じて要望活動を粘り強く展開していく。

(施策の方向に関する評価)

施策の方向① リニア中央新幹線市内停車駅の誘致の推進						
(個別判定)	活動	【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】	評価	【左記の活動により、施策は推進できたか】		
A		コロナ禍の影響により、やむを得ずシンポジウムの開催を中止せざるを得なくなったものの、引き続き、リニア亀山市民会議の活動を支援することにより、中央要望や会報の全戸配布等の駅誘致活動を展開することができた。また、県期成同盟会等との連携を図るほか、「リニア駅を生かしたまちづくりに関する可能性調査」を進めるとともに、リニア亀山駅整備基金の計画的な積立てを行った。		官民一体となった推進組織を中心とした長年に亘る取り組みにより、リニア県期成同盟会において、県下唯一のリニア県内駅位置候補となった市として、令和3年10月には、県期成同盟会に駅候補地案の提案を行うことができた。一方、リニア亀山駅整備基金の積立額が目標額20億円の9割を超え、リニア市内停車駅周辺整備の財源確保が図れた。		
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17066	リニア中央新幹線整備促進事業	主	10,820 / 8,615	B	B
	17067	リニア中央新幹線亀山駅整備基金積立事業	主	51,322 / 51,322	A	A
事業以外の取組	内容				活動	成果

施策の方向② 広域道路網の強化						
(個別判定)	活動	【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】	評価	【左記の活動により、施策は推進できたか】		
B		新名神高速道路建設促進期成同盟会、一般国道1号関バイパス建設促進期成同盟会、鈴鹿亀山道路建設促進期成同盟会を通じて、関係市町及び関係者とともに、国・県に対して要望活動を行った。		地域高規格道路「鈴鹿亀山道路」が、令和4年度に県により事業化されることが決定するなど、広域道路網の整備促進につながった。しかしながら、国道1号関バイパスについては、具体的な整備推進が図られていない状況である。		
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
				/		
				/		
事業以外の取組	内容				活動	成果
	新名神建設促進期成同盟会、関バイパス建設促進期成同盟会、鈴鹿亀山道路建設促進同盟会の要望活動等				B	B